

# 段差フーチング橋脚の設計

## *for Windows*

### *Ver.4*

---

(追補080904) リファレンス  
マニュアル

REFERENCE

MANUAL

# 目次

第3章 リファレンス .....	1
3.12 フーチングの設計(レベル2地震動) .....	1
3.12.2 上部構造の慣性力データ .....	1

## 3.12 フーチングの設計(レベル2地震動)

### 3.12.2 上部構造の慣性力データ

フーチングの保有水平耐力の照査時に参照する、上部構造の慣性力に関するデータを設定します。

橋軸方向と橋軸直角方向の切り替えや、地震動タイプ I とタイプ II の切り替えは、上部のタブをクリックすることで行います。

地震動タイプ別データの設定は、橋軸方向/橋軸直角方向、地震動タイプ I / II および慣性力作用方向別に行います。

#### RD/任意死荷重を計算する荷重ケース

##### ケース番号

設定済みの荷重ケース番号を指定することで、上部工死荷重反力RDや、荷重ケースに割当てられている任意荷重の内、死荷重分についての計算を行います。  
※荷重ケース0や設定されていない荷重ケース番号を指定したり、指定した荷重ケースに上部工反力や任意荷重が割当てられていない場合は計算に考慮されません。

#### 地震動タイプ別データ

地震動タイプおよび、慣性力の作用方向別にデータを設定できます。

慣性力の方向は、[橋軸方向起点側]は、終点側から起点側方向に作用する慣性力、[橋軸方向終点側]は、起点側から終点側方向に作用する慣性力、[橋軸直角方向左側]は、起点側から橋脚正面をみた場合の右側から左側方向に作用する慣性力、[橋軸直角方向右側]は、同様に、左側から右側方向に作用する慣性力ケースです。  
データには次の項目が含まれます。

##### 橋脚が支持している上部構造部分の重量WU

橋脚が支持している上部構造部分の重量を設定します。

##### 梁天端に作用している偏心モーメントMe

偏心モーメント $M_e$ を設定します。

**梁天端から上部構造部分の慣性力作用位置までの高さ $h_U$**

WUの慣性力作用位置で、梁天端(架け違い部天端ではありません)からの位置で設定します。

**WU、WPに乘じる設計水平震度 $k_{hcF}$**

WUおよびWPに乘じる設計水平震度で、道路橋示方書(平成14年3月)耐震設計編12.4に規定する橋脚基礎の設計水平震度(減衰定数別補正係数 $c_D=1$ )です。

**WF/土圧に用いる設計水平震度 $k_{hcG}$**

WFに乘じる設計水平震度で、道路橋示方書(平成14年3月)耐震設計編12.4に規定する橋脚基礎の設計水平震度(減衰定数別補正係数 $c_D=1$ )です。

設計水平震度 $k_{hcF}$ および $k_{hcG}$ は、直接基礎の場合に有効です。ただし、フーチングのレベル2地震動照査の場合は、式-1の場合は無効となります。